

米国北西部 サクランボの出荷量は13%増加の予想

[FreshFruitPortal](#) 2025年6月18日

北西部のサクランボのシーズンが到来し、生産者は豊作を期待している。北西部サクランボ生産者協会の国内販促ディレクターであるカーリー・ランゲ氏は、「20ポンド(約9kg)箱で少なくとも2,200万箱が収穫される可能性があり、昨年の収穫量と比較して13%の増加となる」と話す。

ワシントン、オレゴン、アイダホ、ユタ及びモンタナの各州の2,500以上の生産者が北西部産のサクランボ(甘果オウトウ)を収穫し、全米の生鮮サクランボ供給量の70%以上を占める。

同協会によると、北西部の今年のサクランボシーズンは早く始まる。ただし、この出荷時期の移動が果実の品質に影響を与えるとは予想されていない。シーズンは8月下旬または9月上旬まで続く予想されている。

先週、同協会は1日当たり25万箱以上の出荷を報告した。シーズンが本格化すると、日々のお荷量は35万箱を超えるものと予想される。

南半球の生食用ブドウ輸出量は2024/25年度に11%増加

[FreshPlaza](#) 2025年6月19日

南半球諸国とメキシコ及びインドは、2024/25年度シーズンに合わせて240万トンの生食用ブドウを輸出した。これは8.2kg箱で2億8,900万箱に相当し、前シーズンよりも11%多い。この成長は、南半球の3つの主要輸出国であるペルー、チリ及び南アフリカの一層の活発化によって推進された。

ペルーは、前シーズンより33%多い69万トンで出荷をリードした。この反発は、エルニーニョによる被害からの回復と、前年比4%増で2万3,320ヘクタールに達した認定栽培面積の拡大によるものである。

チリも前向きな進展を記録し、5%の増の55万6千トン(6,780万箱)を輸出することができた。システムアプローチの下での米国への輸出が許可されているアタカマ、コキンボ、バルパライソの各州での良好な天候条件が、この実績を達成する上での鍵であった。南アフリカは、35万630トン(5%増の4,280万箱相当)の輸出を記録して歴史的なシーズンを終えた。

輸出先市場については、米国は前回とは対照的な状況であった。2023/24年度には、供給量の少なさ、インフレ、及び新品種の存在感の増大により、価格は記録的な水準に達した。しかし、2024/25年度には、ペルーでの生産の回復により過剰な供給が発生し、価格に下押し圧力がかかった。種なし白ブドウ部門では、第4週(1月下旬)から第9週(2月末)の期間に価格が1キロ当たり7.6ドルから1.9ドルに下落し、到着よりも遅い出庫ペースによって在庫が積み上がり、港湾の物流に影響を与えた。

中国市場は次第に自給率が高まり競争が激しくなっている。収穫後処理技術の向上により、国産品の出回り量が増加し、輸入の余地が減少した。こうした状況の中で、南半球産の種なし白ブドウの総供給量は27%減少したが、^{ジャンナン}江南市場(広東省広州市)ではペルー産とオーストラリア産のみが良い価格を獲得し、対照的にチリ産、南アフリカ産、インド産の結果は好ましくなかった。

南アフリカは依然としてヨーロッパへの主要供給国である。種なし白ブドウ部門では1,300万箱(+8%)で首位にあり、次いでペルーが1,100万箱(+58%)、チリが290万箱(+85%)であった。南アフリカはまた、1,400万箱(+2%)で種なし赤ブドウ部門をリードし、次いでチリが440万箱(+47%)、ペルーが350万箱(+40%)であった。南半球の種なし赤ブドウの総供給量は14%増加した。

無料でアクセスできる2025年生食用ブドウ国際市場年鑑は[こちら](#)

出典: frutasdechile.cl